

復興研究会報告

No.30(令和2年度 第3号)

発行
岩手県立大槌高等学校
広報班

紺野愛実 佐々木結菜
(題字) 篠崎愛華

発行日：令和2年10月15日

神戸大ワークショップ

9月19日(土) 午前に Zoom を使い、神戸大生と定点観測紙芝居についてワークショップを行いました。参加した皆さんの声をご紹介します。

- 各々が持っている復興への思いや考えを共有することができ、有意義な時間を過ごすことができた。特に、「未来の為に」という思いが共通していたことは、とても良いことだと感じた。(3年男子)
- 自分の考えを言える機会ができて、よかった。今後、更に神戸大の人とコミュニケーションをとって良い紙しばいになってほしいと思った。(3年男子)



- 大槌の人たちには「未来の人に残したい」「過程が大事」など復興に対して共通に感じている部分があることを知った。今後も参加したい。(3年男子)
- 実りある話し合いとなった。完成が楽しみだ。(3年男子)



定点観測

9月19日(土) 午後に第23回の定点観測を行いました。天気にも恵まれ、素敵な写真をたくさん撮影することができました。参加した皆さんの声をご紹介します。



画：紺野愛実

前回に引き続き町方Aの観測を行った。町中の様子に変化はなかったが、サッカー場のあたりで新たに工事が行われていた。道も少し変わっていたため、工事関係者の方に案内していただいた。また小鍮神社で地域の方に声をかけられ、応援していただいた。これからもがんばっていきたいと思った。(3年女子)



吉里吉里班は町方と比べて沢山定点観測をすることが多く、また、場所が離れていたのので、車で移動をした。普段入ることができない工事現場に入ったり、初めてだったので分からない事ばかりだったが、なんとか終わることができて良かった。先生や、大人の方が私たちのために、時間を割いて定点観測に協力してくれたり、周りの大人がいるからこのような活動ができると思うし、貴重な経験が出来るのだと思った。次回も感謝の気持ちを忘れずに定点観測をしたいと思う。(1年女子)



今回は、前回の定点観測をもとに活動を行った。前回の観測写真を見て行ったとき「この場所、どこらへんだっけ」「どういう感じだっけ」などと思いながら行った。また、前回とあまり変わっていない部分が多いと思った。

次回の定点観測はどのように変化するのか楽しみだ。(1年女子)

2回目の定点観測で、今回も町方の変化を写真として記録することができた。こういった変化をこれからも記録していきたい。また、大槌町が店や住宅でにぎわいが戻るのに必要なことを自分でも考えていきたい。次の定点観測でも定点観測班の一員として、班長のサポートなどを頑張っていきたい。また、写真を撮る際にずれが出ないように調整することが大変だった。(2年男子)

町方E班を担当した。水門での撮影では、撮影地点にたどり着くまでの道が変わり、危険な箇所ではなく、完成した橋を渡り、撮影することができた。工事が着実に進んでいることが実感できた。おしゃっち周辺では、コミュニティガーデンプレイスが跡かたもなくなってすこし残念だった。しかし、マストの湯の工事が進んでおり、新しい町並みが完成するのがとても楽しみである。次回が最後の定点観測なので、悔いの残らないようにしたい。

(3年女子)

あまり大きな変化はなかった。しかし、草の量や、草があった場所に木が生えているなどの変化がみえた。また、駅の向こう側の工事現場では、クレーンの位置が前回の写真とちがっていて、しっかり工事が進んでいると実感することができた。今回も新たな変化が見られて良かった。班のみんなのサポートによりスムーズに写真を撮ることができ、協力しながら楽しく定点観測できて良かった。(2年女子)



画：紺野愛実